



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 27

(2023年5月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

木製だったかもしれない鉄水溜てつすいりゅう

現在、富岡製糸場には1875（明治8）年に建造された鉄製の水溜め「鉄水溜」が残されています。しかし、この鉄水溜は、もしかしたら木製の水溜めになっていたかもしれないことをご存じでしょうか。

創業時、製糸に必要な水は敷地北側を流れる用水路から場内の水溜めに引き入れていました。当初はシマン（フランス製のセメント）を内側に塗った煉瓦造りでしたが、水漏れがたびたび起こり工場の運営にも支障きたを来したことから、鉄製の水溜めを建造する案が出されました。

1874（明治7）年4月17日付で内務卿木戸孝允きょう たかよし だじょうかんから太政官に提出された「富岡製糸場鉄水溜築造之儀二付伺」からは「当節御費用多端の折柄二付縦たと えいせいふきゅう いたらず しばらヒ永世不朽ニハ不至トモ暫ク木製ニ換へ…」と、費用の面から木製での建造を再考するよう促されていることが確認できます。

最終的には耐久性や糸の品質への影響を考え、同年6月に当初の意向通り鉄水溜の建造が許可されましたが、仮に木製での建造案が通っていれば、現在の姿を見ることはできなかったかもしれません。

鉄水溜は直径約15mの巨大な水溜めです。全体を見るためには西置にしおき繭所2階のベランダから眺めるのがおすすめです。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー
はこちらから▼

